

鯖江市認知症ケアパス

認知症の段階			初 期		中 期		後 期	
	健康	軽度認知障害 (MCI)	認知症の疑い	認知症はあるが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要	
本人の様子	自立	軽度認知障害 (MCI) が進むと、5年前後で、約半数が認知症になるといわれています。 ●ものの忘れが増えてくるが、ヒントがあれば思い出せる。(約束していたことや、食事の内容など) ●金銭管理や買い物、書類作成等を含め日常生活は自立している。	●ものの忘れはあるが金銭管理や買い物、書類の整理など日常生活は自立 ●同じことを何度も言ったり尋ねたりする ●新しいことがなかなか覚えられない ●運転でミスが増える	●買い物のときにおれでしか支払えない ●家にあるのに同じものを何度も買ってしまう ●ATMの操作ができない ●話のつじつまが合わない ●薬を飲み忘れることが増えた ●火の消し忘れ ●時間や場所、季節がわからない ●よく探し物をしている ●身だしなみを気にしなくなった	●ものの忘れの自覚が無く、ものの忘れを否定する ●慣れた道でもたびたび迷う ●文字が上手に書けない ●昼夜逆転 ●電話や訪問者の対応が一人ではできない、相手の名前を忘れる ●薬の管理ができない ●食事をしたことを忘れてしまう ●「ものを盗られた」等の発言がある ●服の着方がおかしい、服が選べない	●近くに住むこともや孫、親しい人の顔がわからなくなる ●着替えができない、トイレを失敗する等介助が必要	●言葉によるコミュニケーションが難しくなる ●声掛けや介護を拒む ●歩行が不安定になる ●言葉が出ない ●飲み込みが悪くなり、食事介助が必要 ●食べ物でないものを口に入れようとする	●ほぼ寝たきりで意思の疎通が難しい ●食事を口からほとんど摂れない ●飲食物があやまって気管に入り、肺炎を起こす ●食べることの理解ができなくなる
本人の気持ち			◆意欲が低下したり、外出が億劫になる これからどうなるのか不安なとき 「もっとしっかりして」と言われると苦しい		◆家族がそばにいないと不安 できないことも増えるが、できることもたくさんあることを知ってほしい		◆言葉で自分の状態が表現できない 顔や表情からくみ取ってほしい	
家族の気持ち			◆とまどい、否定 「年齢のせいだろう」「言えばできるはず」 悩みを身内にさえ打ち明けられず、一人で悩む時期		◆辛い時期 混乱、怒り 「自分だけがなぜ？」相手のペースに振り回され、疲れきってしまう。他人の前ではしっかりするが、身近な人には症状が強くなる		◆諦め、割り切り 生活のすべてに介護が必要で、介護量が増加する	◆受容 自分自身に置き換える最期をどう迎えるか…
ご自身や家族で やって おきたいこと 決めて おきたいこと	☐ 認知症や介護のこと、介護保険のことを学ぶ機会を持ちましょう。 ☐ 今後の生活設計について考えておきましょう。 ☐ 本人と一緒に、認知症予防に関する取り組みを実践してみましょう。 ☐ 家族の連絡先がわかるようにしておきましょう。 ☐ 安否確認の手段などを検討しておきましょう。ご近所等とのつながりも大切です。 ☐ かかりつけ医を持ちましょう。 ☐ 「オレオレ詐欺」や消費者被害に注意しましょう。 ☐ サロンなど、地域と交流する場に積極的に参加しましょう ぜひこの時期にご相談ください！ 							
認知症の方や家族を支援する体制	医 療	相談や認知症の診断・治療 (かかりつけ医、認知症サポート医)、認知症対応病院						
		医療の専門職に自宅に来てもらう (訪問診療医、歯科医、薬剤師、看護師、リハビリ)						
	相 談	認知症や高齢者の福祉・介護保険に関することなど (鯖江市地域包括支援センター)、認知症初期集中支援チームの訪問、認知症地域支援推進員						
	介 護	認知症カフェなどの通いの場・介護者のつどい						
		本人や家族の相談に応じ、情報提供やケアプランの作成・介護保険に関する手続きの支援 (ケアマネジャー)		介護保険による各種サービスの利用 (自宅で受けられる訪問系の生活支援、通所で受けられる生活に関する機能訓練・入浴など、宿泊して介護を受けられる短期宿泊) など				
	住まい	介護を受ける住宅や施設 (グループホーム、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅など)						
その他	お金の管理や財産のこと、契約に関すること (日常生活自立支援事業、任意後見・成年後見制度)							
	地域での見守りや助け合い (民生委員、認知症サポーター、緊急通報装置、警察、消費生活センター)							